

附属やまぐち学園だより

やまぐち学園教育目標: 発見し、はくくみ、かたちにする学びの広場
めざす人間像: よい未来を共に創り出す人間

第3号 2021年7月20日(火)

山口大学教育学部附属幼稚園

〒753-0070 山口市白石三丁目1番2号 TEL 083-933-5960

山口大学教育学部附属山口小学校

〒753-0070 山口市白石三丁目1番1号 TEL 083-933-5950

山口大学教育学部附属山口中学校

〒753-0070 山口市白石一丁目9番1号 TEL 083-922-2824

地域で生涯学ぶ—ヘーゲル「ベルリン大学就任演説」から学ぶもの—

山口大学教育学部附属学校園山口地区担当副学部長 佐野 之人

地域の皆さん、こんにちは。附属やまぐち学園では「幼小中一貫教育」と「コミュニティスクール」を大きな目標に掲げております。どちらも「学び」の本質に関わるものです。前者は、学びは生まれてから死ぬまで続くということに関わっています。教育の目的は「人格の完成」すなわち子どもを「一人前の人間」になるまでに育てることです。人間は「人間」を学ぶことによってのみ「人間」になるのですが、それは「出来上がる」ことではなく、どこまでも分からない「人間」に触れ、それを「学び続ける身が定まること」だと言えます。つまりもともとどこまでも分からないものである「人間に帰る」、そしてどこまでも「人間を学び続ける」身が定まる、それが「人格の完成」です。

「教育」は現実の生とは異なりながらも生の全体をカバーした学問・芸術・道徳（宗教）といった場で行われなければなりません。教育は「巣の中」で行われます。こうして子どもたちは巣立って行くこととなりますが、「教育」は終わっても「学び」が終わるわけではありません。仕事をすること、家庭を築くこと、政治に参加すること、近しい人の死を体験すること、老いること、そして死ぬこと、こうした現実の生において我々は「人間」を経験することになります。そこには喜びもあれば悲しみもあります。しかしそうした経験もそれを言葉にし、振り返ることがなければ、ただただ過ぎ去るばかりです。そのつど一生懸命生きてきたが虚しいということになります。こうした虚しさを受け止めるものは「学び」しかありません。人間は生涯「学び」を必要とします。「幼小中一貫教育」はこうした射程の広さを持っており、そのことによってそれは「生涯学習」に繋がります。そうしてその場が「コミュニティスクール」ではないかと考えています。それによってコミュニティスクールの概念も「地域で育てる」から「地域で学ぶ」にまで広がることとなります。

ドイツの哲学者ヘーゲル（1770-1831）はベルリン大学就任演説（1818）において学生に対して「哲学の要求」ということを言います。人間は深い矛盾を抱えているから、その解決を求めて哲学を要求せざるを得ない、と言うのです。そうしてヘーゲルは次のように言います。

「哲学と交わることは人生の日曜日〔主の日〕と見なされうる。通常の市民的生活において平日の仕事と日曜日に時間が分けられていることは、最も偉大な制度の一つである。平日は、外的生活と必要の利害関心による仕事で、人間は有限な現実には埋没している。これに対し日曜日に人間は、こうした仕事を断ち、その視線を地上から天上へと高め、自らの神性・永遠性を、〔すなわち〕自らの本質を自覚する。人間が一週間働くのは日曜日のためであり、一週間の労働のために日曜日があるのではない。」

日本人は多く、日曜日は仕事のための休日と考えますね。しかしそうではないとヘーゲルは言います。キリスト教では人々は、平日は仕事にいいそしみ、日曜日になると教会に行きますが、彼らにとっては日曜日こそが神への奉仕の日なのです。ヘーゲルにとってキリスト教の真実の内容を把握するものが「哲学」でした。ですから哲学をやるということは日曜日に教会に行くのと同じ意味を持っています。そうして平日のすべての仕事はそのためにあると言うのです。そこで自らの本質を自覚し、また平日の仕事へと出ていく。その仕事や家事、政治参加はより深みを増し、働くに足るものとなっていることでしょうか。病や老い、死も深みにおいて受け止められていくことになるでしょう。

さてこの「哲学」を「学び」に、西洋人にとっての「教会」を「地域」あるいは「コミュニティスクール」に置き換えてみましょう。そこに一つの世界が開けてきませんか。ヘーゲルならばそれこそが「地上における神の国」「見えざる教会」と言うでしょう。

附属学校園における「コミュニティスクール」。校区を持たないことが欠点のように言われますが、強みもたくさんあります。まずは大学があることです。それから山口・防府地区にはたくさんの卒業生がいらっしゃいます。大学（教職員・学生）と附属学校園（幼児・児童・生徒・保護者）と地域（山口・防府地区、そして何より「白石地区」の皆さん）が三位一体となって、子どもを共に育てる教育活動を行うのみならず、世代を超えて共に学び、文化を育てていくことができそうです。講演・演奏会・展覧会などはすぐに思いつきます。あるいはそのうち、中学校での部活も欧米型の多世代で行う「地域スポーツクラブ」、あるいは地域での文化活動に発展していくことも不可能ではないかもしれませんね。老後も楽しみになりそう？

【附属幼稚園】

子どもたちは、プールでの水遊びを楽しんだり、園で育てた生き物（ツマグロヒョウモンやカブトムシ）と触れ合ったり、七夕の伝統行事に親しんだりして過ごしました。ツマグロヒョウモンは幼虫がパンジーにたくさんいるのを見つけて飼い、サナギから蝶になるまでが見られました。カブトムシは昨秋に卵から孵化した100匹以上の幼虫を学級で分け合って、成虫になるまでを観察しました。

七夕集会では、各家庭に協力してもらって書いてきた短冊や七夕飾りを飾ったり、先生たちの劇を見たり、歌を歌ったり、願い事を伝え合ったりしました。保護者の書かれた短冊に「コロナが収束して、子どもたちがのびのび過ごせますように」とあり、子どもたちとも一緒に願いました。



きもちいいね！

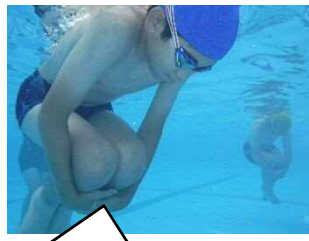
かっこいいな！

みんなの願いがかないますように

【附属山口小学校】

水泳の学習が始まりました。感染症対策のために昨年度は実施できなかったこともあり、子どもたちは水泳をとっても楽しみにしていました。子どもたちは、水の中という特殊な環境で、浮く、呼吸する、進むなどの課題に取り組みながらも、水に親しむ楽しさや喜びを味わっていました。

一人一台のタブレット端末が届き、授業の中で子どもたちがタブレットを手に学習している姿が見られるようになりました。写真を撮って記録したり、調べ学習に活用したりとさまざまな使い方が考えられますが、上手に使って各教科等の学びが促進されるように活用していきたいと考えています。



もぐって拾ったよ！

だるま浮きに挑戦！

観察対象を映像で記録しよう

情報を収集するよ

【附属山口中学校】

今回は、二つの活動をご紹介します。まず「昼休みボランティア清掃活動」です。校地周辺の道や溝を昼休みの10分間で清掃しています。次に、1年生の生徒総会（WAON総会）です。WAON（和音）は1学年の学年目標です。学級委員が事前に1年生にアンケートを実施し、学園生活の問題をまとめて、課題化し解決策をみんなで考えます。生徒たちが学園の中を飛び出して、地域の問題を考えることができるよう成長していくことをめざしています。これら二つの活動は、今は、まだ学園の中での活動ですが、地域に目を向けることで、いずれは、地域と連携した教育活動の展開を期待しています。



溝の中にも入って、しっかりと取り組みました。

みんなでよりよい学園にしよう。